



心を可視化・予測・調整する学際的アプローチ

[キーワード:臨床心理学, 心理情報学, 認知神経科学, 認知行動療法, うつ病, 人工知能]

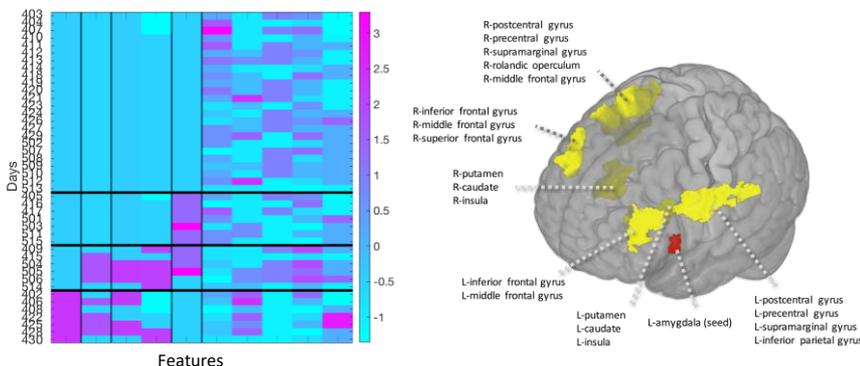
准教授 山本 哲也

<研究の概要>

臨床心理学(認知行動療法), 心理情報学, 認知神経科学のアプローチを活用しながら, 「抑うつや不安をもたらすさまざまな脆弱性を可視化し, 介入方法を創出すること」を大きな研究目標としている。以下を主要な研究テーマとして, 奈良先端科学技術大学院大学, ピッツバーグ大学, 広島大学をはじめとした, 他機関との連携を通じた共同研究を進めている。

- ①人工知能技術と様々なデバイス(スマートフォンやVRなど)を活用した, 心身の状態のアセスメントと介入方法の開発
- ②うつ病をもたらす認知的・生物学的脆弱性の可視化
- ③脆弱性を直接的に変容する行動的介入方法の創出
- ④困難状況における適応・回復をもたらす「レジリエンス」の生物学的基盤の検討

現在は特に, 様々なモダリティのライフログデータやアプリ, センシング機器などを用いて, 健康増進やQOLの向上に寄与するアプローチの開発に焦点をあてた研究を行っている。



約50日間のライフログに基づく頭痛をもたらす行動習慣の可視化

抑うつの保護因子となりうる, 扁桃体を起点とした機能的結合性

<主要研究業績>

- ・山本哲也(2016)『絶対役立つ臨床心理学』(分担執筆「認知行動療法—エビデンスにもとづくアプローチ」)ミネルヴァ書房
- ・山本哲也(2018)「神経認知療法—神経科学は認知行動療法を増強する—」『認知療法研究』, 日本認知療法学会, 11, 13-22.
- ・山本哲也(2020)『遠隔心理支援 物理的距離を超えてケアを継続するヒント』(分担執筆「ウェブベースな支援」)誠信書房
- ・Yamamoto et al.(2017)「Increased amygdala reactivity following early life stress: a potential resilience enhancer role」『BMC psychiatry』, BMC,17:27, 1-11.
- ・Yamamoto et al.(2018)「Altered Gamma-Band Activity as a Potential Biomarker for the Recurrence of Major Depressive Disorder」『Frontiers in psychiatry』, Frontiers Media,9, 691.
- ・Yamamoto et al.(2020)「The Psychological Impact of ‘Mild Lockdown’ in Japan during the COVID-19 Pandemic: A Nationwide Survey under a Declared State of Emergency」『Int. J. Environ. Res. Public Health』, MDPI, 17(24), 9382.

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

- ・認知課題, 生理指標, 機械学習を用いた心理学研究全般

専門分野 : 臨床心理学・心理情報学・認知神経科学

E-mail: t.yamamoto@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7617

Fax : 088-656-7617

HP : <https://www.catlab.info>

https://researchmap.jp/tetsuya_yamamoto/

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/304901/profile-ja.html>

